

常楽寺(滋賀県湖南市)

長寿寺が東寺と呼ばれるのに対し、常楽寺は西寺と呼ばれる



本堂(国宝)/南北朝時代



屋根は桧皮葺き

左奥には三重塔が控える

























三重塔(国宝)/室町時代



三間塔婆本瓦葺き













鐘楼





縁起

阿星山あほしやまの北麓くわくにある当寺は、和銅年間(七〇八〜七一五)元明天皇の勅命により、良弁ろうべんが開基した阿星寺あせいじ五千坊の中心寺院として、また紫香楽宮(七四二〜七四五)の鬼門鎮護として栄えた。平安〜鎌倉時代には、皇室の帰依を受けて寺運は隆盛。延暦年間(七八二〜八〇五)天台宗に改められたという。延文五年(一三六〇)火災で全焼したが、同年、観慶かんけいらによって再興された。桁行七間、梁間六間、向拝三間、入母屋造、椀皮葺の本堂は、明治三十一年国宝(旧法)に指定。明治三十五〜六年改修工事が行われ、昭和十六年には大規模修理の解体工事が行われる。

新法(文化財保護法)により昭和昭和二十八年国宝に再指定されました。

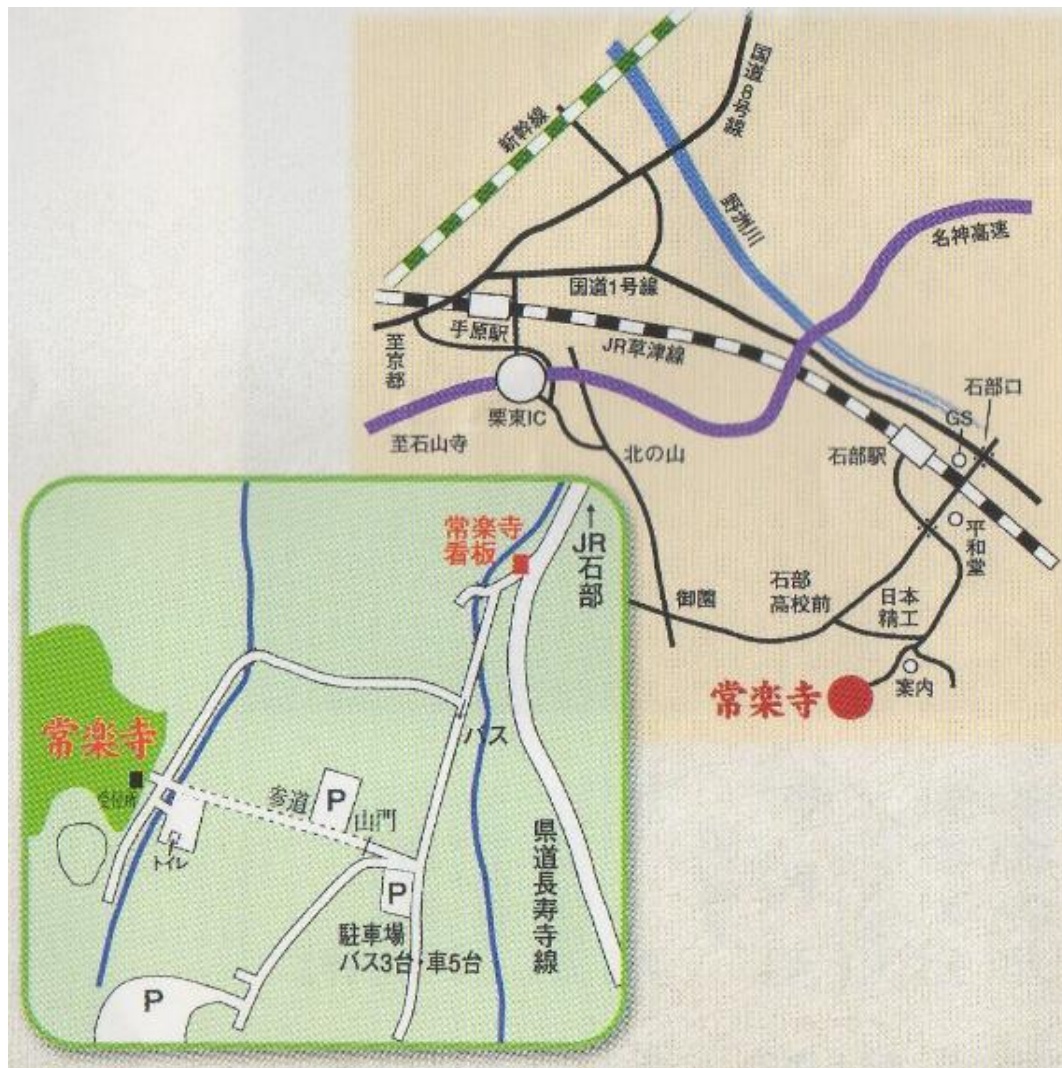
國寶
常樂寺

三重塔 (国宝)

旧法・明治三十一年十二月二十八日指定
新法・昭和二十八年 三月三十一日指定

応永七年(一四〇〇)室町時代 再建
三間四方(五m) 瓦葺 高さ三二・八m
釈迦如来坐像 木造を安置来迎壁
に釈迦説法図が描かれている。

塔は本来仏舎利を安置する建物ですが、天台宗では法舍利(釈迦の根本教典の法華経を仏舎利の替わり)を安置して法華経の功德による国家安穩、護国豊穰を願った。



ホームページ

<http://www.eonet.ne.jp/~jo-rakuji/>